

昨年度の全中視察の報告

< 全国大会視察の目的 >

岡山県の中学生の競技力の視察
部活動として卓球競技を始め，全国大会へ出場する可能性の発見
全国大会の運営の仕方や組み合わせ抽選会の実施方法の視察
最新技術，主流の戦型の視察

女子の私立2校は予選リーグを突破し優秀13校に輝いた。
岡山県の子の競技力の高さは他の都道府県を大きく上回っている。個人戦でも同様にベスト4に1名入った。
男子は 中学校が予選リーグ1勝1敗で決勝トーナメントに進めず。
個人戦ではベスト8に1名進出。男子の競技力はクラブチームによるところが大きい。

私立中学校の進出が目立っている。公立中学校であっても地域のスポーツ少年団やクラブチームとの連携が確認できた。3年間の指導のみで勝利するためにはいろいろな連携を行うことでその可能性が高まると思われる。

個人戦の組み合わせは前年度の全中、カデットシングルスを参考に個人にシード権を与えている。同ブロックや同県が1回戦で当たらないようにドローしている。
団体戦は前年度の全中のみ参考にして決勝トーナメントに出場した学校のブロックに予選リーグのシードが与えられる。また同じリーグに同県、同ブロックが2校以上入らないようにしている。

全中で見た主流の技術

< 戦型 >

- ・シェークの両面裏ソフトラバーで両ハンドが振れる攻撃選手が多い。
- ・左ききの選手もチームに1，2名いるか。多く見かけた。
- ・カット選手も8名？ほどいる。
- ・日本式のペンホルダー選手はほとんどいない。(左の日本式が1名？か)
- ・中国式のペンホルダーで裏面を振れる選手が5人程度か。
- ・バック粒高シェークハンドの選手が活躍していた。(四天王寺)

< 技術 >

- ・打球点が早い。
- ・両ハンド攻撃できる。
- ・ブロック技術が安定している。
- ・台上からかけている。
- ・ストップと切った深いツツキが効いている。

- ・フォアハンドのスイングがコンパクトで連続で安定してはいる上に回転量もある。
- ・深いループが効いている。
- ・バックスイングで面がしっかり出ている・・・安定感
- ・サーブ力がある（YG、投げ上げ、フォアストレート正確）

分析から考えられる全中で通用する技

- ・徹底したコース取りと待ち伏せ攻撃
- ・台に近いところでカウンターブロック
- ・フォアの投げ上げサービス
- ・バックハンドサービス
- ・異質ラバーによる変化ブロック、カット+攻撃
- ・ラリーをしない戦い方を追求・・・一撃で仕留める技
- ・深く切れたツツキとストップを混ぜる技術で相手を崩して前で叩く
- ・回転量のあるループと回転量の少ないループを混ぜる技術
- ・オリジナルの戦型を考える